

ひかりのこ

11月園便り

認定こども園
聖ミカエル幼稚園
2024年10月25日

月主題：感謝しつつ

「素晴らしい一日」

9月29日（日）、聖ミカエル教会のバザーが行われました。そして幼稚園の保護者の有志の皆様が、この日に合わせて、幼稚園のバザーを行いました。当日は、在園のご家族、卒園したご家族も多数来てくださり、大満員で活気のある、素晴らしい一日でした。

お母様方の準備は1学期から始められていました。また、バザーに出品する品物をたくさんの人で作ろうと、「手作りサークル」が立ち上がりました。現在会員は20名近くいらっしゃるそうです。でき上がった作品のクオリティーの高さに、私は驚きました。そして、それを子どもたちが買える値段に抑えてくださったことにも感謝です。

幼保連携型認定こども園に移行して、もう2年になります。お仕事をしながら子育てをされる方も多くなりました。はじめは、父母の会の存続も、私は心配していました。認定こども園に移行した幼稚園の中には、父母の会（PTA）の廃止を決めたところも多くあったからです。しかし反面、「本当にお仕事をされている保護者がPTAを必要ないと考えているのだろうか。」という思いもありました。それは、私の子育ての経験からです。

私も3人の子どもを育てながら、中学校の教員として働いていました。でも、子どもたちの学校や、課外の活動に何らかの形で関わられたら、と思っていました。できるだけ、子どもたちと共にいたかったからです。だから、私は小学校の学級委員を受けたこともあり、剣道会の会計もしていました。夫も学童保育の代表を何年も続けていました。ただ、子どもたちとできるだけ共にいたかったからです。

そこでの様々な方との出会いは、私にとってとても貴重なものとなりました。子どもを通じた、保護者のつながりは、職場とのつながりとは全く違う、新鮮な、おもしろいものでした。そして大人が仲良くなることで、子どもたちも仲良くなっていったこともありました。

ミカエル幼稚園も、お父さんやお母さんが、幼稚園に来て、子どもたちの喜ぶものを作ってくれたり、絵本を読んでもらったり、歌を歌ってくれたりする。お父さんが畑に行き、給食の大根を作ってくれたり、保育参観に来てくれて、お部屋と一緒にいられたりもする。子どもたちにとってこんなに嬉しいことはありません。

まだまだミカエルは大丈夫！園長はそう思っています。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「秋の木の葉」

道端に秋の木の葉が落ちる季節になりました。子ども達も赤や茶色の葉っぱを手にとって季節の変化を楽しんでいることでしょう。道路が舗装されている街中では、木の葉が道を汚しているようにも見えますが、本来は地に落ちて虫達や微生物に分解され、土に還って土の肥やしになり、次の年の植物達の栄養となる大切な役割があります。

子ども達も成長と共に、怪我をして悲しい気持ちになったり、ケンカをして嫌な気持ちになる経験があると思います。痛みや悩みの経験は、守る側の目線からすればできるだけ経験させたくないことかもしれませんが、でも、いつか自分たちの手を離れてこれらの経験をする時が訪れるとき、小さな痛みや悩みの経験が、大きな事故や苦難を回避するための知恵として子ども達にとっての生きた学びであってほしいと願います。自分の体の危険を察知し回避すること、他者の感情に共感して、心が落ち着くまで隣に座るやさしさを学ぶことは、どんな紙の教科書でも教えきることはできません。子ども達のひとつひとつの経験が神様の見守りのうちに成長の糧となりますように。

木には望みがある。たとえ切られても、また芽を出し、その若枝は絶えることがない。

ヨブ記14:7



チャブレン 司祭 上平 更